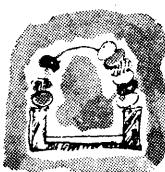


## 幼児との出会い

長山篤子



毎月配本されます「幼児の教育」の中には、素晴らしい幼児との出会いの体験や、素晴らしい人の出会いの尊さをたびたび紹介され、この本との出会いを今更のように大切にしたいと思っているところです。

私も保育者として幼稚園の子どもたちと目の覚めるような出会いをいくつも重ねて参りました。その一つ一つが今私の私を支えてきているように思います。また母親として自分の子どもたちと喜びに満たされるような出会いをしてきました。そして、それは、私が挫折した時に生き生きと生きていくことのできる力となって私を力づけてくれています。

現在、私は、このような出会いを支えに、またもう一つ異なった立場で幼児たちに会っておりまます。一つは、私の勤めております保育養成機関の学生の実習の場で、他は、二ヵ所の幼稚園の先生方と「明日の保育」を考える学び合いの会の中で、またこの会の資料となる子どもの遊びの記録をとる場で、わくわくする思いで幼児に会っておりまます。学生との実習の場で触れ合う幼児とは、まだ時間が浅いものですから私に迫ってくる出会いを記すことができませんが、幼児の遊んでいる姿に触れつつ記録をとらせていただております方は、四歳児に一年半接してきました。少しづつ彼らとはだを触れ合うにつれ、彼らの出会いが、

私にいろいろな形で迫って参りました。また、この記録を

してしまふんだよ」

資料とした先生方との話し合いでは、幼児の成長の素晴らしさ

皆静かに息をこらして小屋の網に顔をつけている。

「こんな力がこの子にあつたのだろうか」とか「このよ

E子「あーあ早くヒヨコみたいナー」

うに成長しようとしていたのか」「このような受けとめ方

K「あつ鶏のお父さん見えた。ヒヨコも少し見えた」

をした方がよかつたのか」など新たな思いで幼児を見つ

I「ヒヨコ、お母さん出してーつていつてるよ、あつ出

め、「明日の保育」の生きた計画案となっております。一

M「あつお父さんがえさを食べた。お母さんさ、食べさせろ」

回一回が大変貴重な話し合いで、その時の気持ちは、なか

B「お父さんはダメ、お母さんが食べないとだめなの」

なか紙面では十分に書き尽せませんが、その中から、いく

E子、しばらくヒヨコに見とれていたが溜息をついて

つか出会った幼児の姿を記録に合わせて記してみたいと思

「ひよこよくうまれたね」。ほんとにきれいに。ほんとに

います。

『ひよこよくうまれたね』

六月四日 T園庭にて E子ちゃんの溜息＝感動 〈記

録抜すい〉

チューリップの茎についていたあぶら虫を見ながら会話

C「赤ちゃんにも食べさせろ」

していた子どもたちの所に「ひよこが生まれたよ、ピヨピ

ヨいってるよ」と先生が報告に来る。みんなワーコと歓声

をあげて鶏小屋の前に集まる。

先生「シー 静かに。お母さん鶏が安全だなと思った

ら、きっと散歩に出すよ。さわいでこわがると羽の下に隠

で、生まれてくるものの感動と喜びがE子ちゃんに溢れておりました。溢れるような感動は自然の中から得られることを教えられた一日でした。

「入れてあげないわけがあるんだ」

三月四日 園保育室にて=熱中する力(記録抜すい)  
UとKと、S、Tがミルクのあきかんをたくさん使って並べているうちにロケット遊びになり、これに燃料を入れて発車させたり爆発させたりして遊び始める。

U 「ワンツースリー ぼきやーん」

K 「わーケーキになつちやつた」  
U 「またミルク ミルク入れよう」

K 「火だ 火を入れるよ」  
S 「いろいろ入れるよ」 T 「油も入れるよ」

四人の動作は呼吸が合い次々にあきかんを重ねて行く。

H はしばらくそばで見ていたが、

H 「入れて」みんなだまっている。

U 「入れて」

U 「だめ」

H 「先生にいっちゃんよ」 Hは先生に報告に行く。もう一度戻って来て「入れて」という

先生「Kちゃん Kちゃん Hちゃん入れてっていつて

るよ。どうして入れないのっていつてるよ」

H 「どうして入れないの。入れてくれたっていいじゃないか」

みんなだまつて返事をしない。Hはしばらく見ていたが別の場所に行く。

先生「ごめんください。ミルク二つください」

K 「ちがうよ。これロケットだよ」

U 「一つあげるよ」

怒った表情でかんを一つ先生に渡す。先生はかんを持つてHの所に行き一緒に遊びはじめる。

K 「これより多い人だとおもしろくないんだもんな」

U 「うん、これがちょうどいいんだもんな」

S 「入れてあげられないんだよなー」

四人はHのことが気になるらしいが、自分たちが一生懸命にやって面白くなつた所なんだから、今は他の人が入れられないんだと繰り返しながらまた遊びを続ける。

私たちにはこうした場面によく出会います。そして、入れ

てあげない側より、入れて貰えない側の気持の方に気を取られてしまいがちであることに気付きました。四歳を過ぎた男児が、自分たちでつくり出した面白い遊びに気持ちをそそぎきつて遊ぶ姿に触れ、彼らの熱中した遊びの、そ

の時は誰からも侵されるべきでないことを知らされました。一つの遊びの中に注がれている力をそこに見る思いがしました。

### “着陸の仕方が悪いな——”

九月十日 H園保育室にて（記録抜下さい）

数日前から広告紙で紙飛行機を折り、飛ばし始めてい

た。最初は折ることに夢中になっていたが、飛ばし始めると、よく飛ぶ飛行機と、うまく飛ばない飛行機が出て来て、飛ばし方にみんなの関心が高まる。記録をしていた私の方にMが来て「さあ出来た、飛ばしてみせるからね、よく見ていてよ」と語りかける。

部屋のすみからすみまでとてもよく飛ぶ。

私「わあ——すごいね、よく飛ぶね」

あまりよく飛ぶので驚いてしまい、私が感心しきつてい

ると、Mはニヤニヤと笑い、もう一度飛ばす。

M「あれー、着陸の仕方が悪いなー。すーと着陸しないとダメなんだよ。少し修繕してみるから待つてね」

翼のバランスが少しひどいことに気付き両方の翼のバランスをとっている。Mは友だちの飛ばし方をしばらく見ていたが

M「ちえー、教えてやるか。飛ばし方を考えるの。静かにこう飛ばすの」力の入れ方をどうしたらよいかを説明する。

M「僕のは翼はこれでよし」「おばさんみててよ」  
すみから飛ばすともう一方のすみにあつたごみ箱の中にうまく入る。

M「きやー、うまくいったもんだ、どうやって入ったもんだか。どうやつて着陸していくんだかー」

Mはうれしくて両手両足をばたばたさせて喜ぶ。飛ばし方の工夫を一生懸命に始める。Mにとつてきっとこの日は素晴らしい充実していた日だったようと思われました。男児にとって飛行機遊びは大変興味を示す遊びですが、この遊びが、このおもしろさが、Mが次々色々なことを発見し工夫していく力となつていることを教えられました。そし

て、私たちにもこんなにおもしろいと思う出来事がもう少し身の回りにあつたら、何か、もつと発見出来たのではないかと考えさせられてしましました。

"おめなんで泣いてるんだべ"

九月十三日 T園保育室にて Ⅱ誤解 〈記録要約〉

この日は運動会に出す遊具や競技に使用するものが園庭に出され、園児のほとんどが、園庭に出て、先生と紅白に分れつな引きや玉入れをして遊んでいる。室内には、興味を示さない子どもが五名ほど残つて積木遊びをしている。いつも大の仲良しのUとDは今日は別々になつてしまつた。Dは紅白の帽子を持って来ていないので「僕帽子ないはんやらね、行かねえんだ」……「僕の家お兄ちゃんのしかないんだ」と友だちに説明している。しばらくして競技が終わつたらしく、Uが入室してくるが、

U「あーつまんねえ、白ぐみが多いはんで赤負けたじや、本当の時は白ぐみになるかな!」

といひながらそこいらにある遊具をける。ぶつぶつ怒つているが、室内に残つっていた男児の所に行き一人一人ほほをつねりあげ「おめなんで赤ぐみに入らなかつたか」と怒

る。次にDの所に行き、「お前なんで来なかつた」と聞くがDは口をとがらせてUの顔を見ている。UはDの顔をなぐりつける。Dは別の所に行くがしばらくして部屋のすみでしきしく泣いている。Uは廊下をうろうろしていたが、また入室してくるとDが大声で泣いているのであわててDの所に行く。

U「おめ なんで泣いてるんだべ」

とDの肩に手をかけて顔をのぞき込む。悲しかつたDはUにやさしくされ、つい前にいたSの方を指さしてしまふ。Uは怒つてSにくつてかかる。先生が中に入り時間をかけてUにDの気持ちを話してきさせ、やつと二人の気持ちがすつきりすることができた。大変複雑な気持ちを四歳児が理解し合うことは難しいのですが、こうした経験を通して、UとDはいっそう関係を深くして行きました。大変大きづばな記録になりましたが、この一つ一つの出来ごとが、密度の濃い人間の生活として私の生活に迫つてくる思ひがしてきます。まだこれから先、いろいろな場面を通して幼児との出会いが、私を、私の生き方を方向づけてくれることと思い楽しみにしています。